

「世界遺産というアプローチ -心の中の平和のとりで-」

令和6年7月14日（日）にイーグレひめじ・あいめっせホールにて、国際理解講座「世界遺産というアプローチ-心の中の平和のとりで-」を開催し、100名が参加しました。この事業は、兵庫県ユニセフ協会と共催で行いました。講師は、世界遺産検定マイスター、世界遺産アカデミー認定講師の山本・リシャール登眞さんです。



講演会の前半では、世界遺産及び世界遺産条約採択までの経緯について、いろいろな視点からお話がありました。1972年に文化遺産及び自然遺産を全人類のための世界の遺産として保護し、保存するために、世界遺産条約が採択されました。世界遺産には、人類の築き上げてきたポジティブな側面があります。

後半では、講師が考え出した「WOW ファクター」に関する説明がありました。「WOW ファクター」とは、優れているものや、美しいもの、畏敬の念を感じるものが持つ「本質」のことです。「WOW ファクター」の効用は、一緒に感動することができること、「WOW」を通して「人」としての自分を見つけることができること、また、「WOW」の魅力をアウトプットする機会を持つことです。また、「WOW」の貯金は、困難を乗り越えるための心の貯金になります。

2020年ユニセフイノチェンティ研究所が実施した子どもたちの幸福度に関する調査によると、先進国38か国中、日本の子どもは、身体的健康は1位であるにもかかわらず、精神的健康は37位でした。日本のこのパラドックスを解決するためには、子どもが「WOW」を見つけて、他の人と共有し、孤独感から解放されることが必要です。そのためには、子どもが「WOW」に気づきやすくなるよう、自由な時間を与えることなどが重要です。

講演会後の質疑応答では、たくさんの質問が出て、聴講者の関心の高さがうかがえました。また、講演会後も多くの方が講師に個別に質問を行い、交流を楽しみました。